

---

# AFBFに前希釈On-line HDFを併用した 1 症例

---

松江腎クリニック

草刈万寿夫

# はじめに

当院では全患者に前希釈on-line HDFを施行し、高齢者や合併症を有する患者でも、高効率かつ安定した透析治療が来ている。しかし、糖尿病患者の中には、いわゆる透析困難症の患者も見受けられる。今回我々は、透析困難症をきたす患者1例に、Acetate free Biofiltration(以下AFB)を施行。前希釈on-line HDFを同時に施行し、知見を得たので報告する。

# 症例及び方法

2

## ■ 症例

40歳代 男性 IDDM

経過

‘89年 CAPD導入

‘00年 HDに変更

‘03年 1月より当院にてOn-Line HDF治療開始

‘04年 4月より透析困難改善のためAFB開始

## ■ 方法

各モードの設定条件において

1. 治療中でのTMP変化を比較する.
2. 各モードの血圧変化を比較する.
3. 治療前後の血中HCO<sub>3</sub>を比較する.
4. UN,  $\beta$  2MG, IP, Albの除去量, 除去率を比較する.

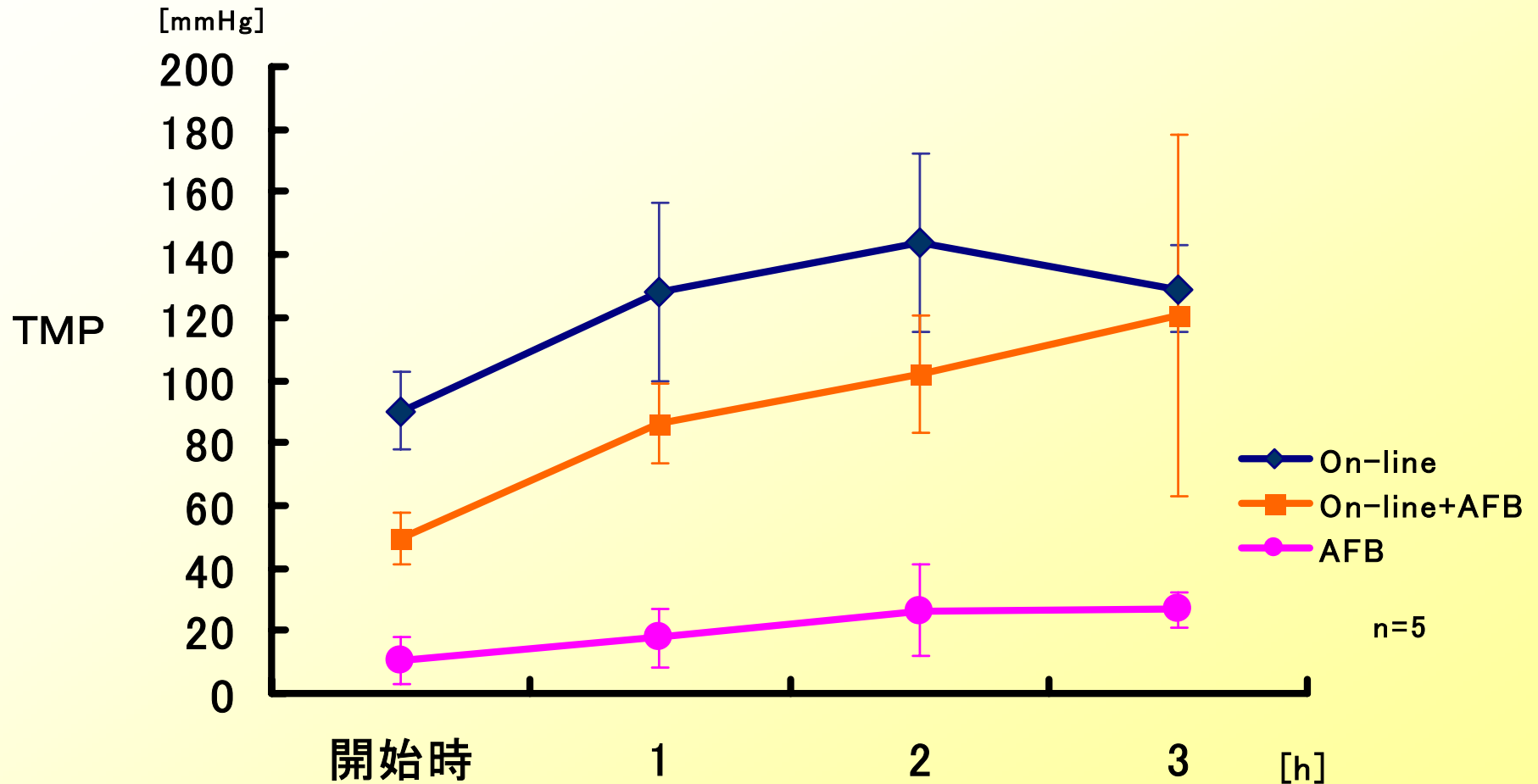
# 各モードの設定条件

- 使用ダイアライザ : TS-2.1UL
- NaHCO<sub>3</sub>補液量 : 8 L
- 透析時間 : 4 h
- QB : 250 ml/min

	QF [l/h]	AFB [l/h]	QD [ml/min]
on-line HDF	12	—	600
AFB	—	2.05	500
on-line+AFB	10	2.05	600

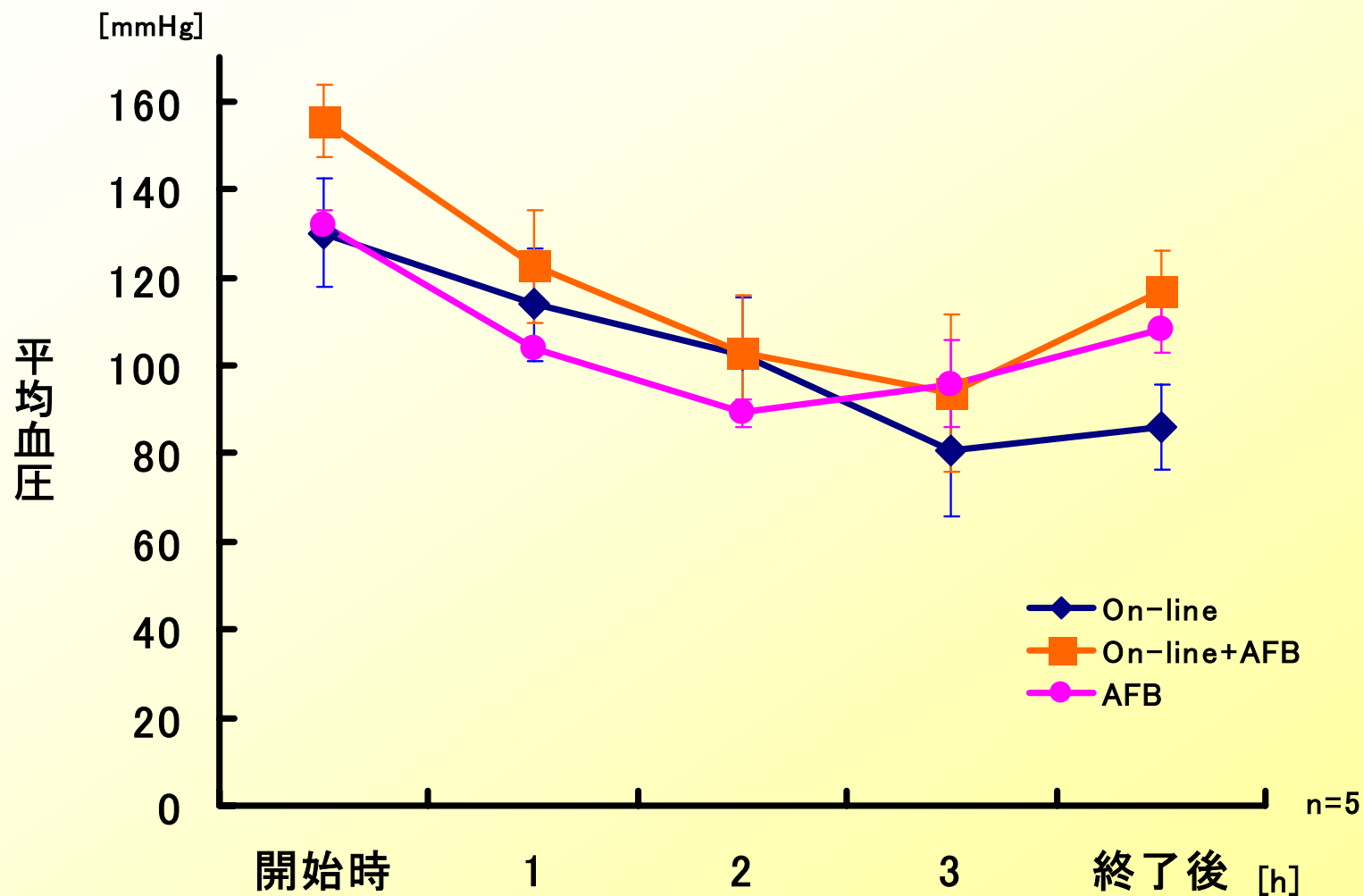
# 各モード施行時のTMP変化

4

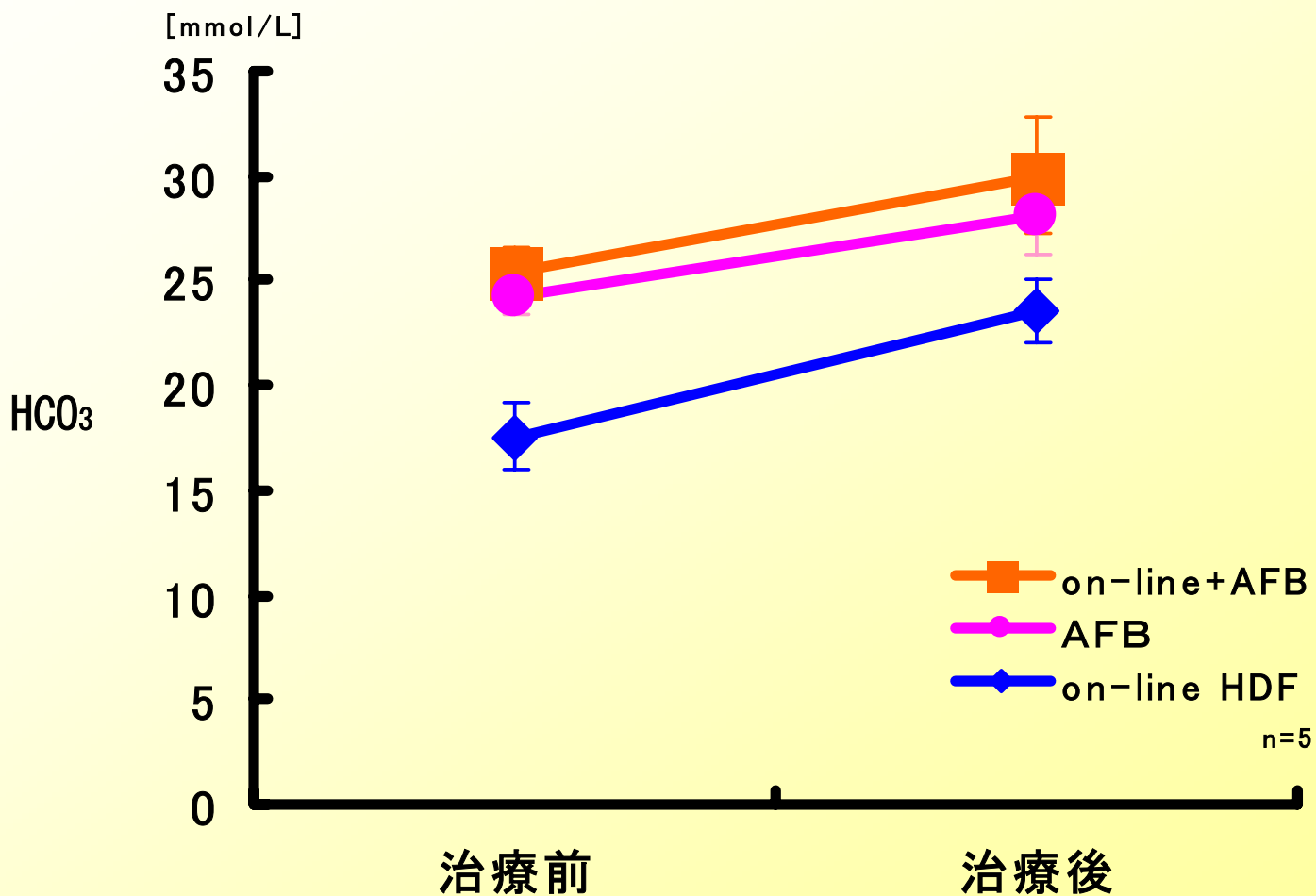


# 各モード施行時の血圧変化

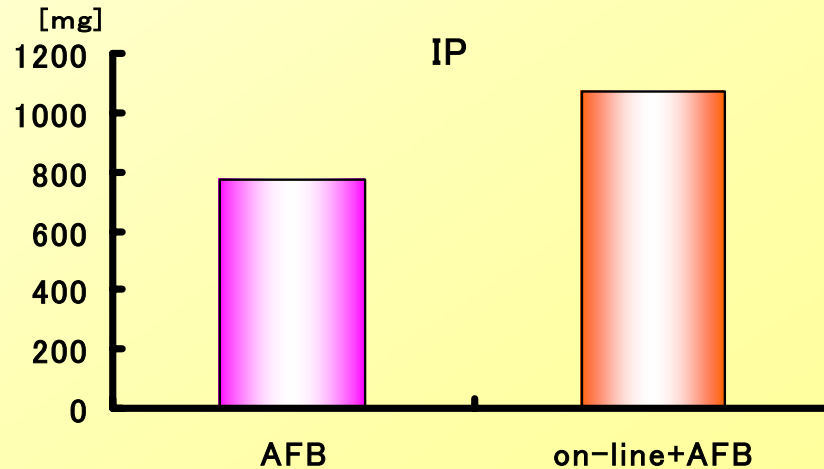
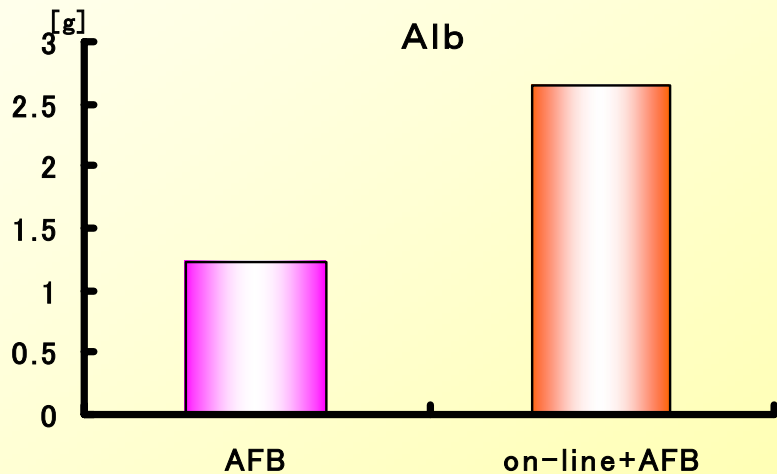
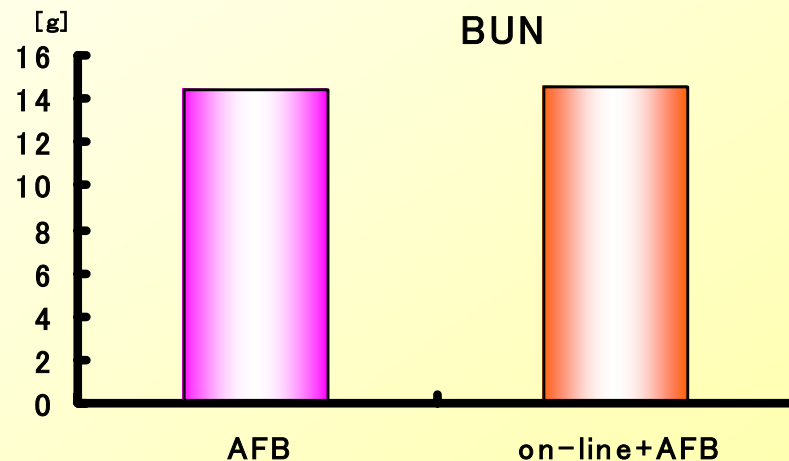
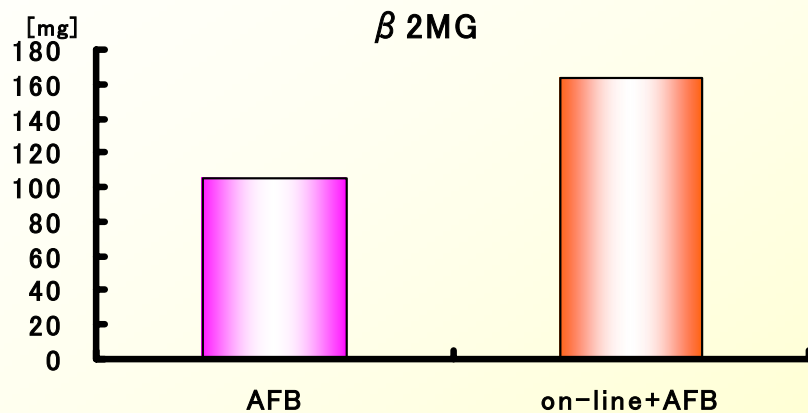
5



# 各モードにおけるHCO<sub>3</sub>の変化

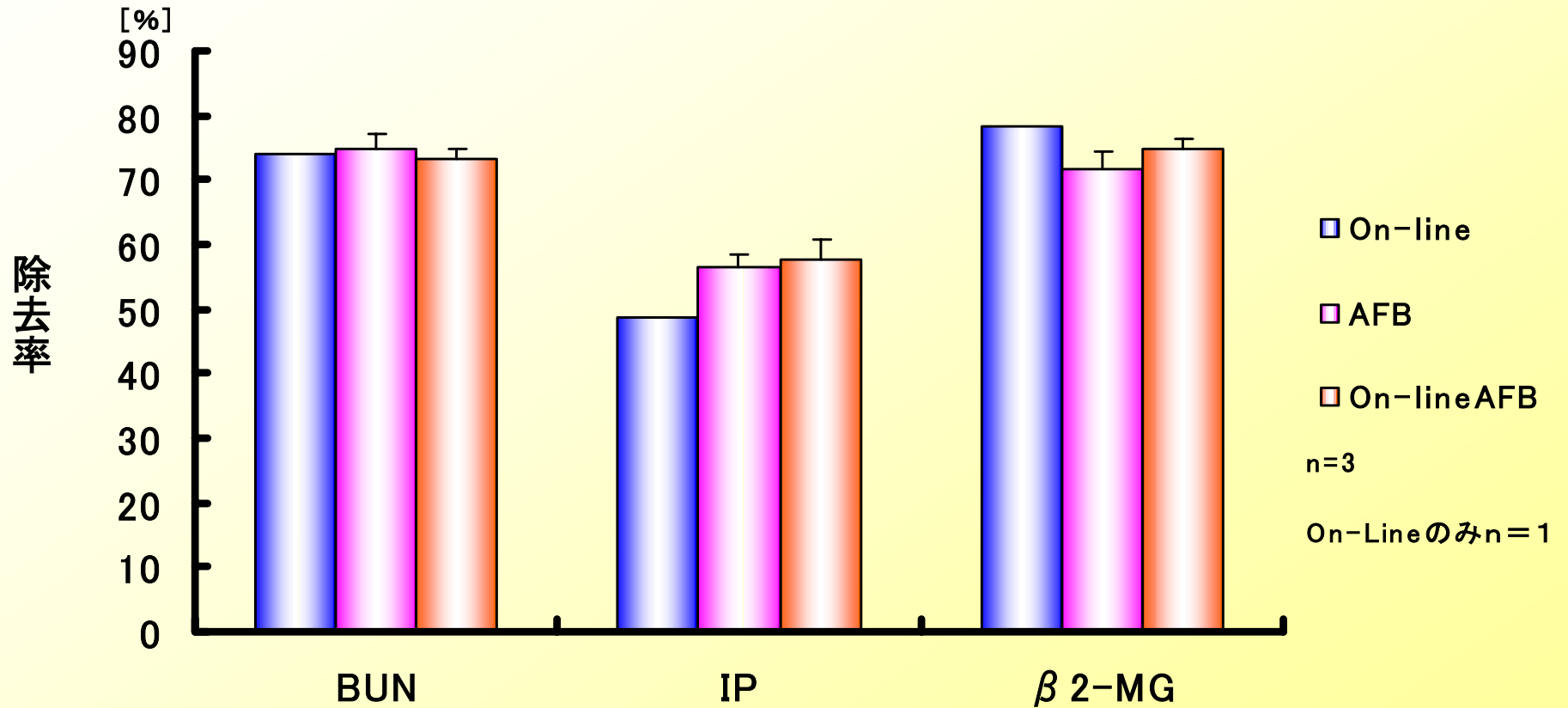


# 各モードにおける1透析当たりの溶質除去量





# 各モードにおける溶質除去率



1. 各モードにおいてTMPは150mmHg以下に抑えられた。
2. AFBとon-line+AFBでは、終了後の血圧低下が少なく、帰宅後の体調も良好であった。
3. AFBとon-line+AFBでは、酸塩基平衡のコントロールが可能になった。
4. 溶質除去量，除去率は，AFBよりon-line+AFBが上回った。

糖尿病患者において、透析困難症の患者には  
AFBが有用である。

AFBに前希釈on-line HDFを加えることにより、  
高効率の治療が行えた。